



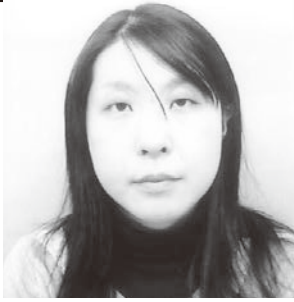
# 兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2013 **3**



2月19日(火)、20日(水)兵庫県民会館(神戸市中央区)にて、「第11回税務・経理講習会」を開催。「初級クラス」「中上級・関連会社クラス」に分かれ、24名が参加し学習しました。(関連ページP.3)



神戸親和女子大学生生活協同組合 専務理事

今村 奈星  
(いまむら・なほ)

## 設立20周年を迎えて

この度、設立20周年を迎えたということ、『想点』への寄稿のお話をいただきました。新年のご挨拶の際にも少し書かせていただきましたので、今回は少し違った視点で書かせていただくかと思います。

おかげさまで神戸親和女子大学生協は昨年12月に設立20周年を迎えました。兵庫県下で初めて女子大での生協の設立でした。私はこの大学の出身ですので、入学した時には生協があり、どの大学にも生協があるものだと思います。しかし、生協のない大学もあるのだと知った時はすごくびっくりしました。今思えば、当たり前ですが当時の私にとって生協はとても身近な存在であり学生が組合員となって、自ら参画・運営できる組織があるということが当たり前だったのだと思います。もちろん、当時は生協の理念や仕組みを理解していたわけではなかったのですが、総代会や一言カードで学生が意見を言えて、希望をきい

てもらえるお店が大学にはあるものなんだと思います。

大学生になるとそれまでの生活から一変し、自分の判断や意見を求められることが増えます。そのような中で大学生協が果たす役割は大きいのではないかと思います。学生が自分たちのお店を評価し、より良くするために意見を交わすということは他ではできないことです。学生の自主性を尊重し、これから社会へ出る学生の学びの場としても大学生協の果たす役割があるのではないかと思います。

設立より20年経ち、組織としては一人前にならないといけない年になってきています。これからも大学と一緒に学生の為にできることを考え、学生主体のお店づくりを行い、歴史を刻んでいきたいと思えます。そして、ここを巣立つ学生に大学生協があつてよかったと思ってもらえるような組織であり続けたいと思えます。

### CONTENTS

2. 想点
3. 第5回理事会 報告／  
第11回税務・経理講習会 報告
4. 東日本大震災 震災支援の取り組み報告  
生活協同組合コープこうべ／  
生活クラブ生活協同組合都市生活／  
神戸医療生活協同組合／尼崎医療生活協同組合  
ろっこう医療生活協同組合／  
兵庫労働共済生活協同組合

6. 大学生協 寄附講座 報告
8. 単協通信 生活協同組合コープ自然派兵庫／  
近畿労働兵庫地区統括本部／  
生活協同組合連合会大学生協阪神事業連合
10. 協同組合のかけ橋
11. 兵庫県のページ
12. 「兵協連だより」通信員・広報担当者研修会のご案内／  
第5回大規模災害対策学習会のご案内  
県連日誌／編集後記

## 2012年度 兵庫県生協連 第5回理事会報告

I. 開催日時 2013年2月4日(月) 午後2時~3時45分

II. 開催会場 兵庫県民会館 12階「1201」

III. 出席者

本田会長理事、寺尾副会長理事、三宅専務理事、板崎、高橋、福島、新保、伴、大沼、小野田、酒井、桑村、若山（以上、理事）  
藤田、金丸、秦（以上、監事）

### 〈協議事項〉

- (1) 兵協連2012年度決算見通しと2013年度予算案について
- (2) 兵協連2013年度活動計画案について
- (3) 兵協連2013年度第63回通常総会に向けての手順とスケジュール(案)について
- (4) 労働金庫からの「つなぎ融資」について
- (5) 2013年度以降の「引当金」活用案について

### 〈報告事項〉

- (1) 「生協対策資金貸付制度」の方向性について
- (2) 「会員生協の概況報告」各出席理事・監事より報告
- (3) 前回理事会～2月上旬までの兵協連行事・活動報告
- (4) 2012年度第4回兵庫JCC幹事会報告

## 2012年度「兵庫県生協連・第11回税務・経理講習会」を開催

2月19日(火)・20日(水)の2日間にわたり、今年で11回目となる「税務・経理講習会」を県民会館にて開催。8会員生協（6関連会社）の職員24名が参加しました。この講習会では、日本生協連 会員支援本部・江藤俊哉氏、日本生協連 会員支援本部 公認会計士・石川雅之氏をはじめ、MMコンサルティング・三宅充氏、コープこうべ 経理部・山下信孝氏、西宮市職員生協 統括部・宮田正樹氏を講師に迎え、全体オリエンテーションと「初級」「中上級・関連会社」の2クラスに分かれて講習を行いました。



「税制改正」についての全体オリエンテーション

まず、全体オリエンテーションでは、江藤氏、石川氏より「平成24年度税制改正について」と題して、会計制度の変更点について、わかりやすく解説をいただきました。また、三宅氏より「税務調査の対応と心構え」と題して、過去の事例を交えながら注意すべき事項を中心にお話をいただきました。そして1日目の午後と2日目にかけては、「初級クラス」「中上級・関連会社クラス」に分かれて講習。初級クラスでは、「税務・経理・財務管理の基本」を中心に、身近な設例に基づく税務申告書の書き方など税務の基礎を徹底的に学習しました。また、中上級・関連会社クラスでは、初日から設例に基づき税務申告書を作成。少人数を活かしてマン・ツー・マンで指導をしながら演習を行いました。参加者からは「初級は、“考え方”や“理屈”を覚える（理解する）のが大切という先生の言葉に共感しました」「先生の体験談などを交えて解説していただき、理解しやすかった」「法改正もあり、定期的に複数回参加するのが良いと思いました」「“復興特別法人税”申告書の書き方がよく分かった。じっくり2日間、集中して勉強できてよかった」などの感想が寄せられ、実践に役立つ講習会となりました。



# ～復興への道のりを、ともに歩んで…～

東日本大震災から2年。震災を風化させず、被災された方と顔の見える関係を築き、被災地を思い続ける。兵庫県生協連の会員生協をはじめ、全国の生協の仲間が、現在もさまざまな支援活動に取り組んでいます。



生活協同組合  
コープこうべ  
これからも

この間コープこうべは、みやぎ生協に協力しながら被災地を支援してきました。宮城県内4カ所に設けられたみやぎ生協ボランティアセンターと、コープこうべの7つの地区がそれぞれつながり、組合員活動の

交流を深めています。

## 県北ボランティアセンター⇕

### 大阪北・第1・第2地区

夏の暑さ対策はもちろん、へちまの栽培や収穫を通して住民同士の語らいが広がればと、昨春に仮設住宅にプランターと苗木を送りました。秋には収穫したへちまで作った、タワシが届きました。仙塩ボランティアセンター⇕第3地区  
仮設住宅での「ふれあい喫茶」の運営を支援する活動を続けています。また、地区内で開かれるさまざまなイベントで呼びかけやバザー、活動報告などを「発信」。広く組合員に、被災地への思いが広がっています。

## 仙南ボランティアセンター⇕第4地区

組合員まつりなどのバザーの収益で神戸の銘菓を送り、「ふれあい喫茶」で好評と聞いています。昨秋からは、被災地の小学校へ送るベルマーク収集活動を始め、小さな善意が続々と集まっています。

## 石巻ボランティアセンター⇕

### 第5・第6地区

「必要とされる支援をタイムリーに届きたい」との思いを「応援リスト」にしました。「キット編」「物資編」「ゲーム編」に分かれていて、「ふれあい喫茶」などで活用されています。

またコープこうべでは、一人ひとりにできることとして、さまざまな募金を行っているです。ご協力いただいた募金は、仮設住宅の灯油支援、ボランティアセンターの活動資金、学校図書などに生かされています。  
(通信員 榊原 晶子)

## 生活クラブ生活協同組合都市生活

「子どもの甲状腺検査活動」に取り組んでいます  
～福島の子どもの権利を守るための活動～

### 市民の手による検査活動

福島第一原発事故によって放射線による健康への影響が心配されています。福島県は18才以下の子どもの甲状腺のエコー検査を進めています。検査を受けた本人へ十分な結果説明がされず、2年後とされる次の検査まで不安を抱えたまま過ごさざるをえないのが実情です。また、検査結果を比較するデータがなく判断できない事で保護者の不安が募っています。国は放射線の影響の有無を調べるために、福島県以外の地域でも同様の検査を実施し比較すると発表しました。生活クラブ連合会は福島の子どもの権利を守る手による子どもの甲状腺検査活動に取り組んでいます。

### 組合員カンパで検査

検査のための医療機関の確保に苦労する生協が多い中、生活クラブ都市生活は、先行して独自に子どもの甲状腺検査に取り組んだ「ろうっこう医療生協」の協力を得てスムーズに検査活動を進める事ができました。募集人数を大きく上回る70名を越える協力の申し出があり、その中から40名に12月中



「被ばくに遭い、それでも福島に住み続けなくてはいけない子どもを持つ親は、放射線の子どもの影響に不安を抱えています。」  
11月30日の学習会で福島の現状を伝える生活クラブ福島土山専務

に検査を受けてもらいました。検査結果は各自にきちんと説明され、3月末には生活クラブ連合会から調査結果が報告される予定です。

この活動にかかる費用は、組合員からのカンパによってまかなわれています。  
(通信員 紺本 直)

## 神戸医療生活協同組合

「忘れない・ともに生きる」

宮城県山元町を中心に、支援活動を継続しています。4月は管理者研修を山元町で行い、8月は「みやぎ虹の架け橋復興支援センター」現地事務所開設、そしてそこへの3ヶ月間の常駐者派遣、また、第2土曜日を中心に、①月2回の「脳いきいきトレーニング&健康チェック」、②地域の夏まつりや、みやぎ県南医療生協の健康まつりなどのイベント支援、③被災者個別支援活動(庭の除塩作業、倉庫片付け、塾の教室整備や備品提供)などに取り組んできました。

大事にしていることは、「被災者を孤立させない」ことです。どの支援活動でも、阪神淡路大震災の教訓を活かして、「被災者同士が触れ合う機会をつくる」「被災地のコミュニケーションづくりを応援する」を大切にしてきました。そして「できることは何でもしたい」と思った震災直後の気持ちを風化させないために、現



11/10 山元町花釜地区の秋祭り





12/22 大量の砂に埋まった庭の「除塩」活動

地に足を運ぶこと、神戸に居てもできることを継続するということを支援の基軸にしてみました。

日が経つにつれて被災地の情報が減り、被災地の方たちに対する関心が少しずつなくなってきたように思います。原発被害のあった郡山医療生協への「新鮮野菜」の発送や、神戸の健康まつりでの東北物産展の開催などで「忘れない・ともに生きる」のメッセージを発信してきました。

2013年度は山元町への定例支援や季節のイベントに加え、福島や他の地域への支援も広げていきたい、そしてその活動で見たこと、感じたことを言葉にしてまわりの人の心に届けたい、記憶の風化を食い止めるにも生きる。大きな力になるような活動を考えていきたいと思っています。  
(震災支援チーム 中西 一真)

### 尼崎医療生活協同組合 東日本大震災への継続的な支援活動について

尼崎医療生活協同組合では、東日本大震災直後より、医療福祉生協連近畿ブロックの仲間とともに宮城県山元町への支援活動を継続しています。2012年9月には「みやぎ虹の架け橋復興支援センター」(宮城県柴田町)を開設し、被災者の声を活かす継続した支援活動の拠点もできました。

この間、地元のみやぎ県南医療生協との連携もさらに強化され、山元町には



医療生協の班が2つできました。毎月第2週と第4週の定例支援活動では、山元町にある仮設住宅や地元の老人憩いの家において健康チェックや健康体操を行い、班会への参加や地域の訪問活動も展開しています。



住民に寄り添い、ニーズを反映した支援活動を展開するため、地域の諸団体との協同も生まれています。『被災地をつなぐ「協同のちから」(昨年以上梓した尼崎医療生協の被災地支援活動をまとめた本のタイトル、日本機関紙出版センター)を、さらにすすめていきます。  
(理事會事務局 杉山 貴士)

### 「忘れないことが最大の支援」とはよく言ったもので、被災に苦しむ人びとは、自分たちのことが世間では忘れられているのでは・・・という孤独感とのたたかいを強いられていることと思います。阪神淡路大震災で同様の体験をしてきた私たちは、できることを少しでも永くつづけることを自らに課して活動してきました。

刻一刻と変わる被災地のニーズを把握するために、みやぎ虹の架け橋復興支援センターにおける「コーディネート」の役割は欠かせません。地域活動を展開するため、地域の諸団体との協同も生まれています。『被災地をつなぐ「協同のちから」(昨年以上梓した尼崎医療生協の被災地支援活動をまとめた本のタイトル、日本機関紙出版センター)を、さらにすすめていきます。  
(理事會事務局 杉山 貴士)



【仮設住宅でのおしゃべりタイム】

岩手県大船渡市は、三陸海岸南部のまちで、一帯はリアス式海岸となっており、東日本大震災では市域に大津波が襲来し甚大な被害が生じたところです。

ご縁があつて震災以来ずっと現地へ当生協から看護師など職員を断続的に派遣し、仮設住宅などへ訪問活動をつづけ、健康相談や血圧測定をしつつ、被災された方々のお話を伺うという活動を繰り返しています。直後の2011年は約7か月に亘り、そして2012年は断続的に3期に亘り職員はもとより生協組合員、医学部生も一緒に空路または新幹線を乗り継いで現地に赴き、大船渡市保健介護センターとの連携のもと、活動してきました。

また、現地の様子をこの神戸でも広く市民に知ってもらおうと支援イベントとして「被災地支援健康まつり」(2011年11月)、「支援チャリティーイベント」(2013年2月)を開催しました。そして今年3月には現地の仮設に暮らす被災した高齢女性の描く「水彩画展」大船渡の風景(仮称)を神戸市内で開催する予定です。

遠くはなれた関西の私たちには「あの震災であつても、被災した人びとにとっては「この」震災として現在進行形であるにちがひありません。でき



【2012年3月にいかなごの釘煮を届けたときに、仮設住宅のみなさんと】

兵庫労働共済生活協同組合  
「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」  
兵庫労働共済生活協同組合(全労済兵庫本部)では、東日本大震災が発生した



2011年以降、組合員の住まいと暮らしを守るため、「備える」「守る」「再建する」という「3つの視点」をもとに、アンケートをとうじて一人ひとりをパーソナルに診断し、なすべきことを明らかにすることで、災害に対する確な対応を支援する「住まいと暮らしの防災・保障点検運動」を実施しています。

具体的には、協力団体(労働組合・共済会など)に「組合員の生活基盤を守る」という本運動の意義・重要性を認識・理解いただき、広く呼びかけを行っています。また、ご来店時や生活保障アドバイザー訪問先においても点検をつうじた保障提案を展開中です。

2013年1月17日には、兵庫県主催の「ひょうご安全のつどい」の会場であるHAT神戸・なぎさ公園において、防災グッズとチラシを配布するPR活動を実施し、ひろく市民に対してアピールいたしました。

ひきつづき、組合員の生活を守るため、本運動を展開してまいります。  
(通信員 鶴田 和彦)

鶴田 和彦



【ひょうご安全のつどい】の会場でのアピールの様子



# 寄附講座 「協同組合論」が 神戸大学にて開催されました



野尻 武敏 氏 (第3回)

「二千十二国際協同組合年記念事業」として、全国大学生協連の寄附講座「協同組合論」が神戸大学にて開催されました。

講義は、全十四回で昨年十一月二十八日から二十三年一月二三日まで七日間、水曜日の午後毎回二つの講義が行われました。内容は別記の通りで、第三・四回と第十三・十四回の講座である二日分については、神戸大学創立一一〇周年記念事業として一般の方も参加可能な公開講座として開催されました。

単位認定をする正規の授業ということもあり、講師の方々は通常の講演とは違う緊張感をお持ちのようでしたが、熱のこもった講義をされておられました。様々な立場で様々な視野から、協同組合の歴史、現状、可能性について語られ、協同組合の様々な形態への理解と可能性をつかめる講義でした。特に初回は、特別講演ということでILO雇用総局長のサラサール氏

による通訳なしの英語のスピーチがあり、皆さんも目を白黒、という場面もありましたが、さすが神戸大生、しっかりと講義に聞き入っておられました。

会場は、二百名ほどが入れる講義室でしたが、皆さん熱心に出席され、毎回満席で遅れてきた学生が席を探すのに苦労されるほどでした。

毎回の講義の最後には、出席者全員が講演者の方より指定のあったテーマでのレポートを提出しなければなりません。熱心にレポートを書かれており、レポートが長くなりすぎて、先生がなかなか講義室を離れられない一幕もありました。

今回の講座は、経済学部教授滝川好夫先生のご尽力により開催されましたが、講義の最終回での先生のコメントが今回の講座の良さを物語っています。

「毎回のレポートで、皆さんが回数を重ねる



毎に確実に理解、成長されていることが手に取るようにわかり、また熱い想いのこもったレポートも多く、満足できる講座でした。協同組合精神を理解し、競争ではなく人の痛みを分かち合える人になってほしい、それがゆくゆくは日本を変えていくという主旨で企画しました。大変有意義な楽しい講義でした。」

協同組合の職員として働いていても、仕事の現場は厳しく、協同組合の良さをなかなか実感できないと思います。貧困や深刻な環境問題などを抱える世界の中で協同組合の優位性と先駆性を理解すること、いじめ・体罰と荒れた世の中だからこそ、改めて協同組合を広げていくことの優位性が理解できると、協同組合で働くエネルギーになります。大学の講義だけでなく、協同組合で働くからこそ、しっかりと学ぶ必要を感じさせられました。

(全国大学生協連  
大阪・兵庫・和歌山ブロック  
事務局 尾澤 賢持)



滝川 好夫 氏 (第1回)



本田 英一 氏 (第4回)



法橋 聡 氏 (第6回)

第十四回	第十三回	第十二回	第十一回	第十回	第九回	第八回	第七回	第六回	第五回	第四回	第三回	第二回	第一回	記念講演
天野晴元氏 (日本生活協同組合連合会)	浅田克己氏 (日本生活協同組合連合会)	浜田充氏 (J A兵庫中央会)	突々淳氏 (兵庫県漁業協同組合連合会)	岡安喜三郎氏 (協同総合研究所)	日野秀逸氏 (日本医療福祉生活協同組合連合会)	庄司興吉氏 (全国大学生生活協同組合連合会)	賀川督明氏 (賀川記念館)	法橋聡氏 (近畿労働金庫)	松山昇治氏 (全国労働者共済生活協同組合連合会)	本田英一氏 (生活協同組合コープこうべ)	野尻武敏氏 (コープこうべ 協同学苑)	須戸裕治氏 (摂津水都信用金庫)	滝川好夫氏 (神戸大学)	サラサール氏 (ILO雇用総局長)



生活協同組合コープ自然派兵庫

マクロビオテックとは!? ～講座編～

2013年1月23日(水)、神戸市西区民センターで、「マクロビオテックとは!?」講座編～を開きました。寒い中、小さなお子さんを連れた方6名を含む16名の参加があり、関心の高さを感じました。

講師はマクロビオテックの勉強を始めて10年になる、組合員の古川昌代さんです。



「MACRO(マクロ)＝おおきな) + BIO(ビオ＝生命) + TECH(ティク＝術)」は単なる健康法ではなく、哲学なのだそうです。その基本の考えから、今の生活に取り入れるためのヒント等を教えていただきました。その中で、古川さんは極端に走らない、バランスを取る、長



い目で見ることが大切だと繰り返し返されました。そして、人生の目標を持つとと話されたのがとても印象的でした。

今回のお話を聞いて、これまでの自分の食事や生活を振り返る良いきっかけになりました。無理せず、できることを取り入れていこうと思います。講師の古川さんのお人柄、生き方に魅かれたという方も多かったようです。

古川さんありがとうございます。なお、続編として「マクロビオテック料理入門編」を、5月29日(水)同じく西センターの調理室で、組合員の大村恭子さんを講師に迎えて開催します。

(組合員・砂川紀子)

近畿労働金庫兵庫地区統括本部

「もとまちハートミュージアム2013」を開催します

今年も3月29日～4月2日にかけて「もとまちハートミュージアム2013」を開催します。「もとまちハートミュージアム」では、障がいがある人々の日常の活動や作品を広く市井の場である商店街に披露する場を創り、障がいがある人もない人も、高齢者も子供も当たり前に関わる福祉コミュニティの形成を目指して、様々なイベントを開催しています。また、昨年からは東日本大震

災復興支援として震災で被災した作業所の製品を販売し、被災地へ支援を届けるイベントも実施しています。

近畿労働金庫兵庫地区統括本部は実行委員として参画しており、現在開催に向け準備を進めています。

今回は親子で楽しめる様々な企画を用意しています。多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。

(通信員 森下 晃司)

開催期間：2013年3月29日(金)～4月2日(火)  
開催場所：神戸元町商店街

内容

- ◆障がい者アート作品(ドギドギ展～チャレンジ)  
日時：3月29日(金)～4月2日(火)10:00～18:00  
(最終日は16:00まで)  
場所：こうべまちづくり会館 地下ギャラリー
- ◆コンサート(もとまちウキウキ)  
日時：3月30日(土)13:00～16:00  
場所：こうべまちづくり会館(2階ホール)
- ◆作業所製品ワゴンセール(ハートショップ)  
日時：3月30日(土)11:00～16:00  
場所：こうべまちづくり会館前・6丁目商店街 街路上
- ◆東日本大震災復興支援・作業所製品バザール  
日時：3月30日(土)11:00～16:00  
場所：こうべまちづくり会館前
- ◆神戸ハンドメイドコレクション社  
… 作業所新製品の展示 …  
日時：3月30日(土)11:00～16:00  
場所：こうべまちづくり会館前(2階ホール入口)
- ◆人形劇とたのしい人形づくり(劇団クラルテ)  
日時：3月31日(日)13:30～15:00  
(受付は13:00～)  
場所：こうべまちづくり会館(2階ホール)  
※先着順、25組  
※人形づくりには事前申込みが必要です。

お問い合わせ

「もとまちハートミュージアム2013」  
実行委員会事務局  
神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階  
(一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所)  
電話(078)252-8280/FAX(078)252-8281



## 韓国大学生協連理事長・マネージャー研修を終えて

1月17日(木)～20日(日)の行程で韓国大学生協連の理事長・マネージャー18名が研修のため関西にお越しになりました。今回の研修目的は、日本の大学生協における会員生協と連帯組織について学ぶことでした。この研修期間内の1月19日(土)と20日(日)の行程に同席させていただきました。あらためて私たち大学生協や協同組合の役割を考えさせられるきっかけをいただきました。

### 【日本の協同組合を知る】

研修3日目の1月19日(土)。韓国大学生協連の皆さんを乗せたバスが「コープこうべ商品検査センター」に到着。一行は、長旅の疲れも見せずバスから降り、会議室で歓迎を受けた後、センターの概要説明やガイドランスを受け、残留農薬や食品添加物検査の紹介をいただきました。

また、放射性物質検査の装置も見せていただきましたが、そんなに大きくは見えない装置の総重量を伺ってビックリ。1トン以上もあるとの

ことで、設置の際には大変ご苦労なされたそうです。また、一行が一番関心を示したのは、「商品(食品)の安全性を検査するために、コープこうべでは1万円の供給に対して、このような検査費用を約7円かけている」と言う点でした。組合員の暮らしの安全を守る協同組合の責任の重さを感じとりました。

### 【日本の大学生協と連帯組織】

神戸市中央区にある大学生協神戸会館では、日本の大学生協とその連帯組織について2つの研究会を開催。1つ目は「日本の大学生協と事業連合」につ

いて。大学生協阪神事業連合専務理事の寺尾より事業連合の概要と中期計画の紹介がありました。厳しい大学財政から大



研究会 (日本の大学生協と事業連合)

学の経営が大きく変化を見せ、その変化への対応の中で事業連合が果たすべき役割やビジョンについて説明をおこないました。

2つ目は「連帯組織と会員生協の関係」について。ここでは「会員生協から見た連帯組織」を切り口に、神戸大学生協末松専務理事や、神戸大学生協の教員理事であり全国教職員委員でもある滝川先生からお話をいただきました。「たすけあいの精神こそが協同組合。今こそ、協同組合のアイデンティティと役割を考え、実践するとき」と力強く訴えかけられました。

最後に事務局の藤江より、「日本の大学生協(協同組合)は、組合員の参加にこだわりをもって活動をしている」との報告もおこないました。

### 【研修を終えて】

今回の研修は、韓国大学生協連の皆さんの要請にこたえる形の内容となりましたが、



商品検査センターで説明を受ける様子



エントランスにて記念撮影

協同することの大切さと協同組合の役割を、もっとアピールする必要があると感じました。

2012年「国際協同組合年」も一区切りとなりましたが、あらためて協同組合に関わる人間として、たすけあいの組織を広げていきたいと感じました。

(通信員・藤江正俊)

# 協同組合のかけ橋

## JF 兵庫県漁業協同組合連合会

### 電気漁船に乗ってみました！ ～JF五色町が協力し実証実験～

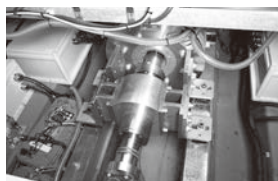
JF五色町（播磨孝次組合長）では昨年11月より電気モーターを搭載した漁船「鳥飼丸」の実証実験が行われており、消費電力や操作性についてデータを集めています。船外機タイプは既に実験を実施していますが、モーターが船内、スクリューが外にあるドライブ船では全国初の取組みです。電動漁船を開発・製造する「アイティオー」（本社：愛媛県）と（社）海洋水産システム協会（東京都）が、水産庁の補助を受けた「電動漁船等地球環境保全型漁船の技術開発事業」の一環としてJF五色町に依頼されたものです。



1月16日(水)にはJF五色町、水産庁、アイティオー、（社）海洋水産システム協会などによる現地調査が行われました。実際に乗船した後の意見交換で、漁業者側から「クラッチを入れただけで動かないと扱いにくい」、「漁労設備を動かす動力についても研究して欲しい」といった意見が出され今後の対応などが話し合われました。

播磨組合長の操船で乗船し約20ノットの速さで走ったところ、エンジン船では聞こえにくいシャフトの回転音がよく聞こえました。事前に聞いて想像していたよりも静かな印象を受けました。

二酸化炭素を大幅に削減するために電動漁船の開発を目指しているこの事業ですが、燃油が高騰する昨今、漁業経費削減にも一役買うことが出来るのではないのでしょうか。実用化に至るまでの課題は多いようですが、将来、日本の海を電動漁船が操業している時代が来るのかもしれない。



船内には大きなモーターがありました

#### 【鳥飼丸データ】

全長約10メートル、幅約2メートル、重さ2.3トン、電力で100馬力を発生。リチウムイオンバッテリーを積み、専用充電器で10時間充電すると約2.5時間（10ノットの場合）航行できる。

## JA グループ兵庫

### ご当地農産物を使った カクテルコンペ開催

J A兵庫六甲はキリンビールマーケティング株式会社神戸支社、神戸メリケンパークオリエンタルホテルとともに開発した、同J A地域内の農産物を使用した兵庫県産ご当地カクテルを発表することとなり、1月15日には同ホテルで審査会を行いました。



同J Aは昨年秋より同社と兵庫県の後援のもと、消費者や地域住民を対象に地元農産物への知識を深めることを目的として



ご当地カクテル第1弾素材の二郎いちご

「食と農」を考えるイベントを実施しており、今回のご当地カクテルの共同開発には、その活動の趣旨に賛同した同ホテルも参加しました。

「J A兵庫六甲の農産物を使ったご当地カクテル」の第一弾の材料には神戸市北区の「二郎いちご」を使用。カクテルのレシピは同ホテルの従業員から募集し、審査会では、「ノンアルコール」、「アルコール」、「清酒」の3部門でそれぞれ最優秀賞が決定しました。最優秀賞に選ばれたカクテルは同ホテルやJ A全農兵庫直営レストラン「神戸プレジール」、キリンビアパーク神戸「丘の上のビアレストラン」で提供されます。

今後はトマトやコマツナを使ったカクテルも開発していく予定です。





最近の消費生活相談事例

# 引っ越しトラブルを避けるために

## 事例

引っ越し時に事業者が家具を傷つけられた。補償を求めることはできるのか。

3月、4月は、就職や進学、転勤等で引っ越しが最も多いシーズンです。それに伴い「荷物が破損した」「荷物が紛失した」など、引っ越しに関する相談が最も多い時期でもあります

### 【アドバイス】

標準引越運送約款※では、荷物の破損等について、事業者は引っ越し作業に関し注意を怠らなかったことを証明しない限り、損害賠償の責任を負うことになっています。液晶テレビやパソコン等壊れやすいものは、事前の見積もり時に必ず申告し、梱包前の状態を事業者と確認して写真撮影しておくなど、細心の注意を払いましょう。

なお、同約款では荷物の紛失・破損があった場合、荷物の引き渡し日から3カ月以内に事業者へ通知しない限り、事業者の責任が消滅すると定められていますので、紛失や破損に気付いたら、すぐに申し出ましょう。

#### ※標準引越運送約款

「約款」とは、事業者があらかじめ取引の基本的なルールを定めて記載したものです。「標準引越運送約款」は、国土交通省が一般家庭の引っ越しを対象として、見積もりや荷物の扱い、事故の際の責任等に関するルールを定めたもので、多くの引っ越し事業者に採用されています。

(兵庫県生活科学総合センター)

# MOVE

## 2012年度『兵協連だより』通信員・広報担当者 研修会

日時：3月21日(木) 14時30分～16時30分  
場所：兵庫県民会館 10階「1001」※変更になりました

お申し込みは  
先着順 20名

内容：「効果的なキャッチコピーやタイトルのつけ方」  
「デジタル時代の新聞編集について」

講師：朝日新聞 大阪本社 鈴木 史氏(編集センター 次長)

多くの人に読まれたい広報物…「キャッチコピー」や「タイトル」に悩んだことはありませんか？  
「編集者生活20年」の鈴木氏から、実務に生かせるポイントについてアドバイスいただきます。

参加対象：会員生協『兵協連だより』通信員および広報担当者

一部内容が変更になる場合があります

お申し込み・お問い合わせ：兵庫県生活協同組合連合会(担当：中尾) TEL：078-391-8634

## 兵協連「第5回大規模災害対策学習会」のご案内

「阪神・淡路大震災」そして「東日本大震災」の教訓をふまえて、災害対策やBCP策定マニュアルの作業がすすめられています。

南海トラフ沿いの巨大地震津波にどう備えるのかを整えていく必要があります。

日時 3月27日(水) 15時～17時

場所 兵庫県民会館 3階「304」

参加費 無料

お申し込みは  
電話・FAXにて  
先着順 50名

内容 【～来たるべき災害へ“考え”“備え”“守る”～

コープこうべのBCP策定 報告】

講師 戸田 拓也 氏(コープこうべ 人事・教育・総務部 防災・事業継続 統括)

お申し込み  
お問い合わせ 兵庫県生活協同組合連合会(担当：濱田) TEL:078-391-8634 FAX:078-392-2059

### 編集後記

とある休日。友人に誘われコープ商品  
を製造する食品工場の見学に行きまし  
た。甲子園球場の倍の広さという7階建  
ての工場では400品目の商品が作られ  
年間7,000人の方々が見学に訪れる  
そうです。キツネ色になったパンがコロコロ  
と焼きあがり、巨大な布団のような  
白いパン生地が待ち受けるコンテナにドット  
と落下するのを見て、思わず「オーっ」と  
と童心に返ったひとときでした。☆この商  
品たちが家に配達されたりお店で手に取  
られたりして組合員さんの食卓に並ぶ風  
景を考えると、安全・安心に対する配慮  
はもちろんなこと、新商品の開発も楽し  
みです。時代の流れに沿って商品は変わ  
っても、おいしいものを食べるといつも元気に  
笑顔になれる。ちなみに、私の大好きなパ  
ン「サンライズ(地域によつてはメロパン  
とも言います)」はクッキー生地がついてい  
るので1個390カロリー(！)と知り、一  
度に2個食べるのはやめよう…と、心に  
誓いました。(中尾)

### 県連日誌

- 3月5日(火) 兵協連第3回医療生協部会 (県民会館 ばら)
- 3月19日(火) 兵協連第2回医療生協部会組織 担当者会議 (県民会館 ばら)
- 3月21日(木) 兵協連「兵協連だより」通信員・ 広報担当者研修会 (県民会館 1001)
- 3月22日(金) 兵協連ピースアクション委員会 (全体会) (県民会館 302)
- 3月26日(火) 兵協連第3回保健・医療・ 福祉研究会 (県民会館 301)
- 3月27日(水) 兵協連第5回大規模災害対策 学習会 (県民会館 304)
- 3月28日(木) 兵協連第6回生協活動委員会 (県民会館 301)